

都道府県・ 指定都市番号	35	都道府県・ 指定都市名	山口県	研究課題番号・校種名	2 (5) 小・中学校
				領域名	校種間連携
研究課題	<b>学校全体で取り組む研究課題</b> (5) 校種間の連携による教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
指定年度	平成 28 年度～平成 29 年度				
ふりがな 学校名  (園児・児童数)	しゅうなんしりつ かのしょうがっこう ・周南市立鹿野小学校 (100 人) しゅうなんしりつ かのちゅうがっこう ・周南市立鹿野中学校 (66 人)			学校・地域の特色及び実態等 ・中学校区内 1 小学校の中山間地域 ・児童生徒の 9 年間を見通した継続した育みの必要性	
所在地 (電話番号)	周南市立鹿野小学校 〒745-0302 山口県周南市大字鹿野上 3054 番地 電話 0834-68-2288 FAX0834-68-2304 e-mail kanosho@shunan.ed.jp 周南市立鹿野中学校 〒745-0302 山口県周南市大字鹿野上 3061 番地 電話 0834-68-2289 FAX0834-68-2401 e-mail kanochu@shunan.ed.jp				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.shunan.ed.jp/kanochu/">http://www.shunan.ed.jp/kanochu/</a>				
研究のキーワード	カリキュラム編成 言語活動 家庭自主学習ノート 学習ルール 基礎学力				
研究結果のポイント	○学習内容の系統性を教師が示すことで、児童生徒が既習事項とのつながりや今後の見通しを意識できるようになり、より主体的に学べるようになった。 ○言語活動を核とした授業を実践することで、児童生徒が積極的に意見交換をするようになり、多様な価値観に触れる中で思考・判断し、自ら学ぶ姿勢が見られるようになった。 ○授業の振り返りで見つけた疑問点等を家庭自主学習「鹿野っ子ノート」で取り上げ、その内容を次の授業で生かすという工夫をすることで、本時から次時へのつながりを意識し、主体的に学べる児童生徒が増えた。また、「鹿野っ子ノート」の定着により、基礎学力の定着が進んだ。				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

校種間連携(小中連携)を軸とした、言語活動を充実させる教育の実践  
 ～児童生徒が授業で「わかる・できる」を実感できる学びの礎づくり～

### (2) 研究主題設定の理由

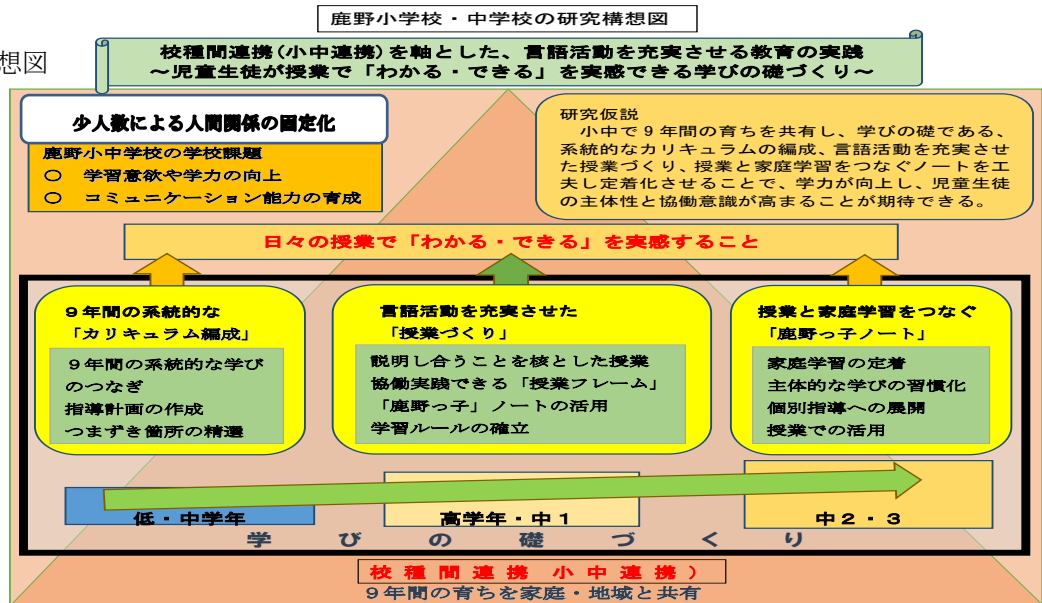
鹿野小・中学校は地区内唯一の小中学校であり、これまでに、小学校と中学校の教員が協働し、系統性のある育みの充実を図るために、小中合同研修会や学校行事の合同開催等、小中連携教育を意識した様々な活動に取り組んできた。

しかし、各アンケート等から、「読み取ったものを他人に説明する」ことや既習内容の定着不足等の課題が明らかになった。そこで、研究主題を「校種間連携(小中連携)を軸とした言語活動を充実させる教育の実践」、副題を「児童生徒が授業で『わかる・できる』を実感できる学びの礎づくり」として、説明し合うことを核とした言語活動を取り入れた授業づくりを研究の中心とし、児童生徒が「わかる・できる」ことを実感できるようになることを目指した。

そして、副題にある「学びの礎づくり」の三本柱として、「9年間の系統的な指導計画づくり」、「説明し合うことを核とした言語活動の充実を図る学習指導の工夫」、「授業と家庭学習をつなぐノートの工夫」について実践することとした。

(3) 研究体制

ア 全体構想図



イ 研究組織

(ア) 小中連携企画会議：研究における重点取組事項に関する企画・提案

(イ) 小中合同研修会：企画・提案に対する協議、研究授業、各種調査結果の分析

(4) 1年間の主な取組

平成28年度	4月	企画会議・小中合同研修会	昨年度のまとめ・1年間の研究の方向性
	5月	企画会議・小中合同研修会	学力・学習状況調査分析、研究授業(小・国)
	6月	国研調査官学校訪問	研究の方向性の確認・小中参観授業と取組説明
		企画会議・小中合同研修会	山口大学 岸本教授受指導、鹿野っ子ノート実施
	8月	企画会議・小中合同研修会	岸本教授受指導、鹿野っ子ノート検討
	9月	企画会議・小中合同研修会	研究授業(中・国)、岸本教授受指導
	10月	企画会議・小中合同研修会	研究授業(小・国) 考察・岸本教授受指導
			学力・学習状況調査分析
	11月	企画会議・小中合同研修会	研究授業(小・国) 考察・本年度の中間まとめ
	12月	企画会議	系統性のある指導計画の作成
	1月	企画会議・小中合同研修会	1年間のまとめと発表原稿作成・修正
	2月	企画会議・小中合同研修会	提案授業と2年次方向性の確認

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

○ 【カリキュラム編成】9年間の系統的な指導計画づくり

児童生徒がつまずきやすい単元や領域を精選し、9年間の系統的な指導計画を作成したうえで、授業研究や授業実践に活かす。

○ 【言語活動の充実】説明し合うことを核とした学習指導の工夫

学習内容の定着を図るために、言語活動を取り入れた学習指導の在り方について、研究授業や互見授業、乗り入れ授業等を通して明らかにする。

○ 【鹿野っ子ノート】授業と家庭学習をつなぐノートの工夫

学習内容を確実に定着させていくために、授業で使用するノートと家庭自主学习で使用するノート【鹿野っ子ノート】の在り方を研究する。

(2) 具体的な研究活動

○ 【カリキュラム編成】9年間の系統的な指導計画づくり

ア 各教科の9年間の指導計画づくり

イ 算数・数学9年間のつまずきをなくす授業研究・授業実践（分数・図形・関数）

○ **【言語活動の充実】説明し合うことを核とした学習指導の工夫**

ア 言語活動を充実させる授業のフレームづくり

(ア) 主体的に課題に向かい、解決に向けた自分自身の考えを整理する。

(イ) 相手の立場を尊重して説明し合い、自分の考えを整理する。

(ウ) 本時で学習した内容や過程をキーワード等で、「鹿野っ子ノート」に記述し、家庭学習や次時の授業につなげる。

イ 説明し合う言語活動を取り入れた学習指導案づくり

ウ 授業検討会の実施

エ 学習ルール定着に向けた指導の工夫

(ア) 9年間を貫く学習ルールづくり  
(切り替えのけじめ、聞くことへの意識等)

(イ) ルールの可視化

(ウ) 共感的な人間関係を醸成する活動

(AFPY等)

オ 9年間の言語活動の系統的研究

(ア) 言語活動を重視した指導計画の作成

(イ) 小中相互による互見授業、乗り入れ授業の活性化と意見交換

(ウ) つまずきをなくすための重点領域等の精選

○ **【鹿野っ子ノート】授業と家庭学習をつなぐノートの工夫**

ア 家庭学習を活性化することによる既習内容の定着

(授業から家庭学習につなげるための疑問点やキーワード・キーセンテンスを書き出していく等のノート指導)

イ 家庭学習を支援するツールの工夫

(ア) 家庭学習の手引きの作成と配布

(イ) 各教科シラバスの作成と配布

ウ ノート指導によるつまずきの把握

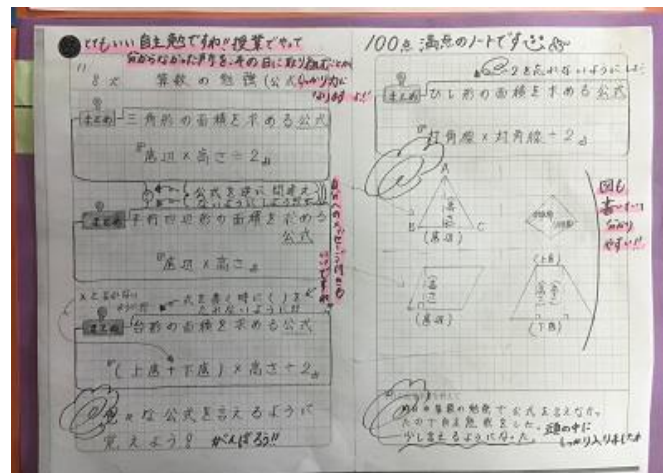
エ ノート掲示による励ましと個別支援

オ 家庭学習ノートからつながる授業づくり

カ 積極的な情報発信による保護者への啓発

言語活動を充実させる授業フレーム	
学習の流れ	
導入	<b>課題との出会い</b> ← 自分の考え1 ○魅力的な課題設定 ○全員が自分の考えをもつための入り口になる疑問 ○(家庭で取り組んだ「鹿野っ子ノート」の紹介)
展開	<b>説明し合う活動</b> ○ペア・グループ・全体等、話し合いの席の工夫 ○ホワイトボード等、話し合いのためのツールの活用 ○話し合いのルール(進め方、司会の仕方等) ○ゆきぶりのための疑問 ○「聞く」ことの意識化 ○友達考えの取り入れ
終末	<b>「鹿野っ子ノート」の活用</b> ← 自分の考え2 ○疑問点やキーワード・キーセンテンス等を書き出すことによる振り返り
家庭学習	○授業での疑問点の追究 ○キーワード・キーセンテンスに関する自主学習
次時の授業	○「鹿野っ子ノート」の活用 ○教師や友達による評価

[言語活動を充実させる授業フレーム]



[「鹿野っ子ノート」の例]

3 研究の結果と今後の取組

(1) 研究の結果

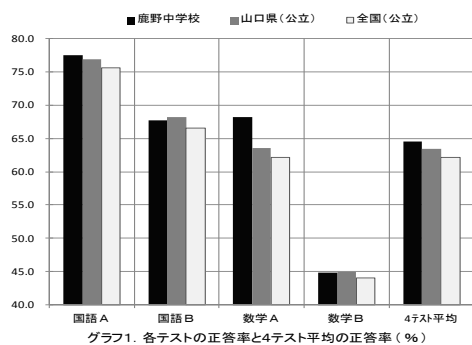
○ **【学びの礎づくりによる児童生徒の変容】**

- ・ 系統的な授業設計により、学習内容のつながりを児童生徒が理解することで、主体的な学びが見られるようになった。
- ・ 説明し合うことを核とした言語活動で、児童生徒が積極的に意見交換をするようになり、多様な考えと自分の考えとを比較することで、思考・判断する様子や自ら学ぶ姿勢が見られるよ

うになった。

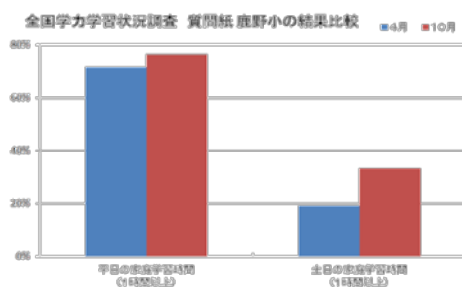
- ・ キーワードをもとに授業の振り返りをする事で、本時から次時へのつながりを意識することができる児童生徒が増えた。
- ・ 児童生徒が疑問点や主体的に学んでみたい項目を、「鹿野っ子ノート」で取り上げ、家庭で自主学習を行うスタイルが確立した。また、家庭で自主的に学習した内容を、授業に生かす場面を意図的につくることで、前時から本時へのつながりを意識する児童生徒が増えた。そのため、基礎学力も定着してきている。

#### ○ 【鹿野中学校 ～全国学力・学習状況調査結果から～】



- ・ 全ての調査において全国平均を上回っており、特に国語A・数学Aについては、山口県平均をも上回っている。以上のことから国語・数学において、基礎・基本が身に付いていることが分かる。
- ・ 国語と数学において、得た情報から必要な情報を読み取る力、多くの情報を論理的にまとめる力、文章を要約して簡潔に他人に伝える力を伸ばす手だてを工夫することが課題である。

#### ○ 【鹿野小学校 ～全国学力学習状況調査 質問紙から～】



- ・ 宿題以外に「鹿野っ子ノート」に取り組む児童が増えたことで、家庭学習の時間が、平日・休日ともに学習する時間が伸びた。
- ・ ノートへの励ましや学校だより・ホームページなどを通じた広報活動により、「鹿野っ子ノート」のやり方の理解が進み、学習意欲の向上につながっている。

## (2) 今後の取組

### ○ 【カリキュラム編成】 9年間の系統的な指導計画づくり

小中合同研修や企画会で教員同士の話し合いの大切さを確認しながら、つまづきやすい単元や領域での成果を踏まえて、他領域にその取組を広げていく。また、9年間の系統性や継続性を考え、学習内容の配列の組替えや単元構成の工夫を行い、児童生徒の発達の段階や実態に適した指導計画を立てていく。

### ○ 【言語活動の充実】 説明し合うことを核とした学習指導の工夫

授業での言語活動を整理し、授業研究や互見授業、日々の乗り入れ授業をこれからも行う。その際、深い学びにつながる対話や書く活動の在り方についても研究を進め、日々の授業を改善していく。

### ○ 【鹿野っ子ノート】 授業と家庭学習をつなぐノートの工夫

学習内容の定着に、ノートの研究は効果があると考えられる。今後も疑問点やキーワード・キーセンテンスを特設枠に書き出す指導を基本にしながら、各教科で改良を加えていく。個に応じた指導に生かすために、児童生徒一人一人の思考をノートで把握し、小中での継続的な観察を行うことにより、個別の指導の在り方について研究していく。さらに、「鹿野っ子ノート」を児童生徒同士の対話の活性化に役立てるための指導方法を工夫していく。